

令和8年(2026年)5月11日

開館40周年記念展覧会  
シリーズ **THE DAIMYO**

テーマ展「井伊直政なおまさと直孝なおたか

—井伊家の礎いしずえを築いた名将—」を開催します



このたび、彦根城博物館において、みだしの企画を行いますのでお知らせします。つきましては、広報方についてよろしくご高配のほどお願い申し上げます。

記

1 名称

開館40周年記念展覧会 シリーズ THE DAIMYO

テーマ展「井伊直政と直孝—井伊家の礎を築いた名将—」

2 会期

令和8年(2026年)5月15日(金)～6月15日(月) 会期中無休

開館時間：午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

3 会場

彦根城博物館 展示室1

4 展示の趣旨

井伊直政いなおまさ(1561-1602)は、遠江国とおとうみのくに(現在の静岡県)井伊谷の有力領主井伊家に生まれ、遠江国に勢力を広げていた徳川家康とくがわいえやすに近習きんじゅうとして召し抱えられました。家康は、直政が名門の出であることや、対外交渉力などを評価して、士大将さむらいだいしょうに抜擢しました。そして、新たに創設する直属の部隊を率いることを命じ、精鋭で知られた武田家の重臣飯富虎昌おぶとらまさの軍制を継承して、軍装を朱色で統一させた「赤備え」とさせたと伝えます。赤備えの部隊を率いた直政は、徳川家の主要な戦いで大きく活躍して、家康が最も信頼を置く重臣の一人に上り詰め、のちの江戸幕府の成立に大きく貢献しました。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いでは、先陣を切る活躍や、その前後における有力大名との交渉など、めざましい働きを見せ、近江国佐和山さわやまの地に徳川家中最高の18万石を与えられました。佐和山に入った直政は、のちの彦根藩領へと繋がる領内の統治に乗り出しましたが、程なくして病により亡くなり、その事業は、息子の直継なおつぐ・直孝なおたかへと引き継がれます。

直政の次男直孝(1590-1659)は、元服後、2代將軍秀忠に出仕し、江戸幕府と井伊家のパイプ役を果たしました。慶長20年(1615)の大坂夏の陣では、兄直繼に代わり、赤備えの部隊を率いて参陣し、徳川方の勝利に大きく貢献しました。そして、その功績により、20万石に加増され、兄に代わり、彦根藩主を継ぐことを命じられました。直孝は、大御所秀忠から3代將軍家光の後見を命じられ、幕政に参画して、政治的に大きな課題に取り組みました。直孝が將軍を補佐し、幕政に参画したことが淵源となり、井伊家は、のちに確立する將軍の後見役を担う「大老」を出す家の一つとなりました。また、直孝は、家光の嫡子竹千代(のち4代將軍家綱)の元服に際して烏帽子親を勤めたほか、將軍に代わり日光東照宮への参拝を行っています。こうした役目は、直孝以降、歴代当主に継承され、井伊家固有の勤めとなりました。晩年、病がちなながらも將軍を補佐し続けた直孝は、嫡子の直澄に將軍家への奉公を第一とすべきと説いた遺訓を残しており、その遺訓は、のちの井伊家当主に受け継がれました。

本展では、江戸時代260年間の天下泰平に大きく貢献し、江戸幕府における井伊家の礎を築いた初代直政・2代直孝の活躍を紹介します。

当館は、令和9年(2027)2月11日に開館40周年を迎え、これを記念し、約1年にわたり、全9回にわたる展覧会「シリーズ THE DAIMYO」を開催します。本展はその第2弾として開催するものです。

## 5 展示作品

30件(別紙作品リストの通り)

## 6 観覧料

一 般 700円

小・中学生 350円

\*30名以上の団体割引等あり

\*\*常設展「“ほんもの”との出会い」も併せてご覧いただけます。

## 7 関連事業

### (1) ギャラリートーク

日 時：令和8年(2026年)5月16日(土)午後2時～ \*30分程度

会 場：展示室1

担 当：柴崎謙信(当館学芸員)

その他：展示室への入室は観覧料が必要

### (2) 関連講座「井伊直孝—天下泰平に貢献した名将—」

日 時：令和8年(2026年)5月31日(日)午後2時～午後3時30分

\*受付は午後1時30分～

会 場：当館講堂

資料代：100円

定 員：50名(当日先着順)

担 当：柴崎謙信（当館学芸員）

その他：展示室への入室は観覧料が必要

**問い合わせ先**

彦根市教育委員会事務局

彦根城博物館 学芸史料課

担当：柴 崎 謙 信

電話：0749-22-6100

FAX：0749-22-6520

E-mail：museum@mx.hikone.ed.jp

テーマ展「井伊直政と直孝—井伊家の礎を築いた名将」作品リスト

No.	指定等	名称	作者	年代	所蔵
<b>井伊直政</b>					
1		井伊直政画像		江戸時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
<b>家康の近習から重臣へ</b>					
2		井伊氏族系図伝記		江戸時代前期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
3	滋賀県指定有形文化財	徳川家康書状 井伊直政宛	徳川家康	天正11年(1583)1月12日	彦根城博物館(木俣清左衛門家文書)
4	重要文化財	織田信雄感状	織田信雄	(天正12年(1584))6月19日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
5	重要文化財	豊臣秀吉朱印状	豊臣秀吉	天正18年(1590)8月7日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
6	重要文化財	徳川家康黒印状	徳川家康	文禄元年(1592)11月18日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
7		寛永諸家系図伝		寛永年間(1624~44)	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
8		采配		桃山時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
<b>有力大名との交渉を担う</b>					
9		関ヶ原記大全	宮川尚古(忍齋)	江戸時代中期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
10	滋賀県指定有形文化財	伊達政宗書状 井伊直政宛	伊達政宗	(慶長6年(1601))9月17日	彦根城博物館(木俣清左衛門家文書)
<b>関ヶ原の戦いで活躍する</b>					
11		関ヶ原合戦図		江戸時代後期	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
12	滋賀県指定有形文化財	朱漆塗仏二枚胴具足 井伊直政所用		桃山時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
<b>井伊直孝</b>					
13	彦根市指定文化財	井伊直孝画像	東溟弁日 賛	江戸時代	清凉寺
<b>大坂の陣で活躍し、彦根藩主となる</b>					
14	滋賀県指定有形文化財	井伊直孝書状 木俣守勝宛	井伊直孝	慶長15年(1610)閏2月5日	彦根城博物館(木俣清左衛門家文書)
15		大坂夏の陣図	山縣岐鳳 筆	江戸時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
16	重要文化財	徳川家康知行宛行状写	徳川家康	慶長20年(1615)5月	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
17		井伊年譜	功刀君章	江戸時代中期	彦根城博物館(井伊家伝来典籍)
18	重要文化財	後水尾天皇宣旨写	中原(押小路)師生	慶長20年(1615)閏6月19日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
19	重要文化財	薬入貝殻		桃山時代~江戸時代	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
20	大名物	宮王肩衝茶入		中国・宋時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)

21	滋賀県指定有形文化財	朱漆塗燻韋威縫延腰取二枚胴具足 井伊直孝所用		桃山時代～江戸時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)
将軍家を補佐し、天下泰平に貢献する					
22	重要文化財	徳川家光書状 井伊直孝宛	徳川家光	(寛永10年(1633))8月16日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
23	重要文化財	古兵部少輔右近大夫古掃部頭并悴子共先掃部頭又者古キ家来共覚書		江戸時代	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
24	重要文化財	巖有院様御元服之留書		江戸時代	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
25	重要文化財	日光名代御暇并御進献物請取之図		(天明元年(1781)閏5月7日)	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
26	重要文化財	直孝様・直興様書付之写		江戸時代	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
27	彦根市指定文化財	御城内御絵図		文化11年(1814)	彦根城博物館
28		宇津木富矩書状 宇津木小左衛門宛	宇津木富矩	万治2年(1659)6月26日	個人(宇津木三右衛門家文書)
29	重要文化財	直孝公御遺言写	井伊直亮	文化7年(1810)2月24日	彦根城博物館(彦根藩井伊家文書)
30		井伊家歴代肖像		明治時代	彦根城博物館(井伊家伝来資料)

## 作品解説

### 1. 井伊直政画像 (部分) 1幅 (作品リストNo. 1)

縦 91.9cm 横 41.3cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

彦根藩井伊家初代直政(1561-1602)を描いた肖像画。  
遠江国(現静岡県)井伊谷に生まれた直政は、徳川家康に仕え、軍事・政治両面にわたる優れた手腕によって、家康の最も信頼する重臣の一人として活躍し、家康の天下統一に大きく貢献しました。

本作品は、直政の没後まもなく描かれたとみられ、衣冠姿で、手に家紋の橘紋入りの中啓を持つ姿で描かれています。



### 2. 徳川家康書状 井伊直政宛 (部分) 1通 (作品リストNo. 3)

滋賀県指定有形文化財

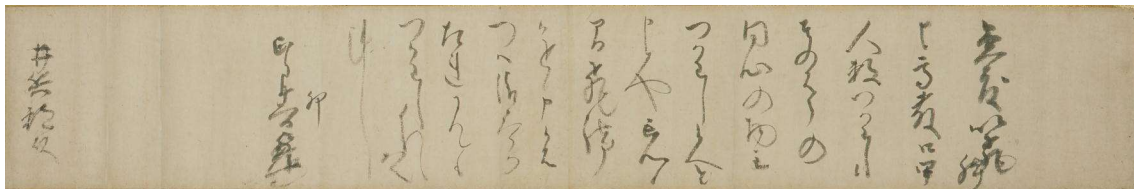
縦 15.8cm 横 97.6cm

天正11年(1583)1月12日

当館蔵 (木俣清左衛門家文書)

天正11年(1583)、信濃国(現長野県)の掌握を目指す徳川家康が、井伊直政に配下の部隊を高遠口(現長野県伊那市)へ派遣するように命じた書状。家康は、直政の才覚を高く評価しており、新たに創設する家康直属の部隊の一つを率いるように命じ、精鋭で知られた武田家重臣飯富虎昌の軍制を継承し、軍装を朱色で統一した「赤備え」とさせたと伝えます。

高遠口には、直政に代わり、腹心の木俣守勝が部隊を率いて出陣しました。本書状は、新たに創設された直政隊の初陣を示す貴重なものです。



急度以飛脚  
申候、高藤口甲  
人数つかわし候、  
そのはうの  
同心の物主  
つかわし申し候へと  
申し候や忘候  
間、飛脚  
進候、申候は  
つハ清三郎か  
たれにても  
つかわし候へく候、  
恐々  
謹言  
卯  
正月十二日 家康  
井伊直政  
井兵部殿

3. 伊達政宗書状 井伊直政宛（部分） 1通 （作品リストNo. 10）

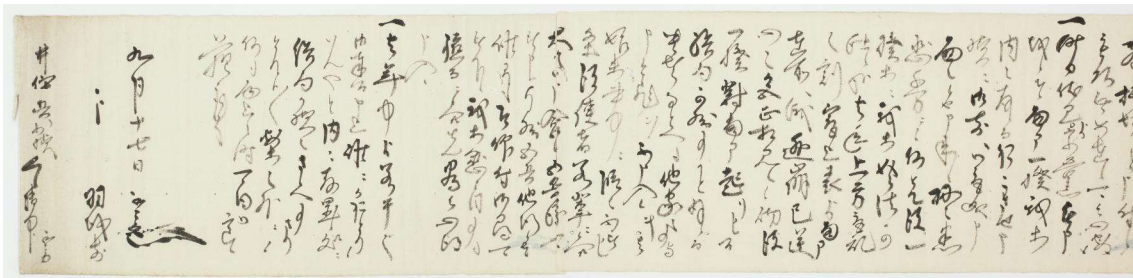
滋賀県指定有形文化財

縦 19.8cm 横 169.8cm

慶長6年(1601)9月17日

当館蔵（木俣清左衛門家文書）

伊達政宗が井伊直政に宛てた書状。南部領内（現岩手県）で起こった一揆への関与を疑われていた政宗が、以前から家康との間を取り次いでいた直政を通じて、家康への釈明を求めています。直政は、優れた交渉力から多くの有力大名との交渉を担い、政治交渉の面からも家康を支えました。



（前略）  
 一、昨日伏見方宗薫被申  
 越候者、南部一揆我等  
 内々存候而おこさせ申  
 様二御前へ御取成申  
 面々候由申来候、扱々迷  
 惑千萬二候、  
 （中略）  
 始末書中二段々不被申候  
 条彼使者若輩二候へ共  
 大かた申合候、五兵衛可  
 被申候、自然五兵衛他行  
 候者  
 誰二ても被仰付御尋可  
 被下候、我等懸御目事も  
 聽而二候へ共、先為御心  
 得  
 申入候  
 （中略）  
 九月十七日 政宗（花押）  
 羽越前  
 （井伊直政）  
 井伊兵少様 政宗  
 人々御中

4. 朱漆塗仏二枚胴具足（井伊直政所用） 1領 （作品リストNo. 12）

滋賀県指定有形文化財

胴高：37.0cm

桃山時代

当館蔵（井伊家伝来資料）

井伊直政が、慶長5年（1600）の関ヶ原合戦で着用したと伝わる具足。全身を鉄板で隙間なく覆っており、実戦向きの仕様となっています。

直政は、開戦の火蓋を切り、負傷しながらも西軍の島津隊を追走しました。また、黒田長政や真田信幸ら豊臣恩顧の有力大名を味方に引き入れる交渉を成功させるなど、めざましい活躍を見せ、徳川方の勝利に大きく貢献しました。



5. 井伊直孝画像 (部分) 1幅 (作品リストNo. 13)

彦根市指定文化財

東溟弁日 賛

縦 102.8cm 横 41.9cm

江戸時代

清凉寺蔵

彦根藩井伊家2代直孝(1590-1659)を描いた肖像画。直政の次男として生まれた直孝は、慶長20年(1615)の大坂夏の陣で大きく活躍し、その功績から彦根藩主となりました。そして、大御所徳川秀忠から將軍徳川家光の後見を命じられ、幕政に参画して、將軍家光・家綱を補佐し、江戸幕府の確立に貢献しました。

清凉寺の第6世住持東溟弁日が記した賛には、「天下の大老、源氏(徳川家)の先鋒」、「(將軍家)三代において覇業を輔く」とあり、直孝の功績を讃えています。



6. 大坂夏の陣図 (若江合戦図) 1幅 (作品リストNo. 15)

山縣岐鳳 筆

縦 91.5cm 横 173.0cm

江戸時代

当館蔵 (井伊家伝来資料)

慶長20年(1615)の大坂夏の陣における若江合戦の様子を描いたもの。軍装を朱色で統一した井伊直孝が率いる赤備えの部隊が、豊臣方の木村重成隊と交戦する場面を描いています。兄直継に代わり参陣した直孝は、この合戦で木村隊を破り、徳川方の勝利に大きく貢献しました。その功績から20万石に加増され、家康の命により、兄に代わって彦根藩主となりました。



7. 徳川家光書状 井伊直孝宛 1通 (作品リストNo. 22)

重要文化財

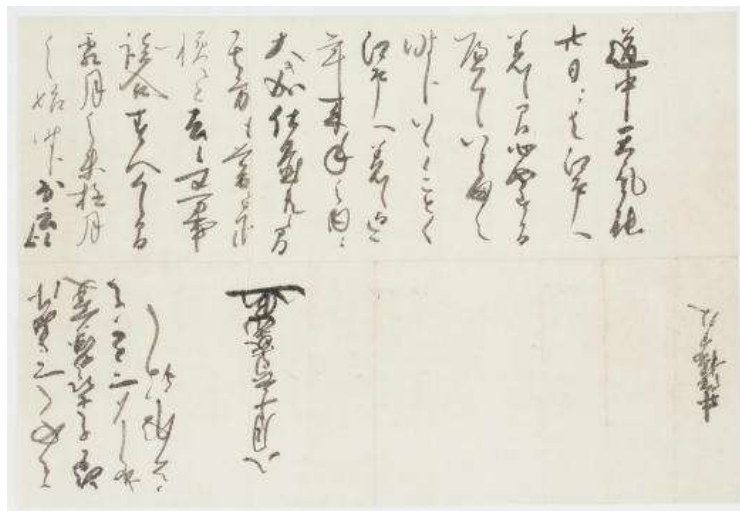
縦 21.9cm 横 47.3cm

寛永10年(1633)8月16日

当館蔵 (彦根藩井伊家文書)

3代将軍徳川家光が井伊直孝に宛てた自筆書状。家光は、「大きな<sup>しおき</sup>仕置」を行うので、直孝に江戸に下るように命じています。家光は、直孝を深く信頼し、大局的な決断が必要な場合は、老中らの合議に加わるように命じ、意見を求めました。

直孝が将軍を補佐し、幕政に参画したことが淵源となり、井伊家は、のちに確立する将軍の後見役である「大老」を務める家の一つとなりました。



8. 井伊直孝御遺言写 1冊 (作品リストNo. 29)

重要文化財

縦 26.5cm 横 19.5cm

文化7年(1810)2月24日

当館蔵 (彦根藩井伊家文書)

井伊直孝が死の直前、嫡子直澄<sup>なおすみ</sup>に残した遺訓の写し。将軍家への奉公を第一とし、常に軍備を整えておくように説いています。本書は、井伊家12代直亮<sup>なおあき</sup>の写しであり、直孝の遺訓がのちの井伊家当主に受け継がれていたことがわかります。

